

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 22 年度

事業所番号	2770302202		
法人名	社会福祉法人 月の輪学院		
事業所名	グループホーム つかさの家		
所在地	大阪府寝屋川市仁和寺本町2丁目3-5		
自己評価作成日	平成 22年 12月 1日	評価結果市町村受理日	平成 23年 4月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2770302202&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 23年 2月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の希望や思いにこたえるべく努力している。趣味・嗜好や一人一人の価値観は違う為、利用者それぞれの希望に応じた外出やレクリエーションを取り入れる支援をしている。出来ない事ばかりに焦点をおかずに、出来る事に光をあてるよう日々話し合いアイデアを出し合っている。家族には出来るだけグループホームでの日常を知り、安心してもらい、不安や疑問を表出出来るよう、手紙や電話の他、デジタルアルバムなどを取り入れている。他のグループホームとの交流を深め、情報交換をしてきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

知的障がい児の支援事業を運営している法人が、子どもから高齢者まで、一貫して福祉サービスを展開しようと設立したグループホームです。豪邸を改装したホームには植木や灯籠のある立派な庭園があり、その一角で野菜や季節の草花を植えています。ホーム内は広くて明るいダイニングキッチンがあり、リビング、和室を中心に、生活共同空間として家庭的で落ち着いた安らぎのある場になっています。地域との交流も盛んで、防災訓練には利用者も参加しています。地域のふれあい喫茶に毎月出向き、地域の方と利用者が顔なじみになっています。職員は個性豊かな利用者に誇りを持ち、個別支援に力を入れています。「今日もここで暮らしてよかった。明日もここで暮らしたい」と思ってもらえるようなホーム作りに、管理者・職員が取り組んでいるグループホームです。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当グループホームの理念の内容を踏まえたうえで、ケアスタッフとともに実践しやすい内容「私達の理念」を職員と考え、常に自己覚知ができるよう制服のポケットに入れ、日々ケアの実践に努めている。	「利用者の人権を尊重しともに生きる社会の実現に努めます。」「利用者と職員の心の触れ合いを大切にし、表情豊かな生活を送ってもらえるよう努めます。」「利用者には自主性を重んじ生甲斐のある生活を送れるよう支援します。」の理念を管理者・職員が共有して支援にあたっています。「今日もここで暮らしてよかった。明日もここで暮らしたい」と思ってもらえるようなホーム作りを目指しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に開かれた施設として開所以来努めた毎日の散歩からはじまり、地域神社の清掃や、毎月のふれあいサロン等に参加。散歩では、近隣の庭を見学したり、野菜をいただいたりすることが日常的になっている。	地域との連携には積極的に取り組んでいます。民生委員主催のふれあいサロンに毎月参加し、地域の方たちとの交流があります。自治会の防災訓練にも参加しています。ボランティアの協力もたくさんあり、習字・大正琴・ハンドマッサージ・三味線・ドッグセラピー・カラオケ等、利用者の生活を豊かにする取り組みを行っています。今後は、散歩コースの途中にある保育園との交流や、自治会参加も検討中です。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	毎月「つかさだより」を発行し地域住民にも配布。役立つ情報を提供している。運営推進会議の中では、夏は熱中症予防対策、冬はインフルエンザについて等、身近な情報も発信している。22年9月の会議では、管理者より認知症の理解の為「パーソンセンタードケア」について説明した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民・民生委員・利用者家族・地域包括支援センターの職員・法人理事長・管理者・スタッフ等で2カ月に1回開催。報告・情報交換以外に困難事例も具体的にあげ意見交換し、支援のヒントとしている。会議に出席していないスタッフにも伝達し情報を共有している。施設の現状も見ていただき率直な意見をいただいている。	市の代表、自治会会長、民生委員、地域老人会代表、家族会代表、地域包括支援センター職員等の参加で2カ月に1回開催しています。運営状況の報告や情報交換、勉強会などの内容です。運営規程も作成しており、出席できないメンバーには会議録を送付しています。会議内容は職員にも回覧し、情報を共有しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村が担当する勉強会に参加している。そこでの意見交換の中で、他のグループホームとの交流づくりを積極的に働きかけている。今後、市と協力し認知症マップ作りに参加予定。事業所で困っていること等も相談し、助言をもらっている。	市の担当者は、都度連携しています。市と協力して、認知症マップ作りに取り組んでいます。市内のグループホーム同士の勉強会や交流も始まり、参加することになっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを掲げて業務に従事している。玄関が死角位置にあり外部からの侵入を防ぐ目的で施錠しているが、食堂や居間から出入り可能にしている。帰宅願望が強い利用者には一緒に付き添う等し、安全に配慮しながら自由な暮らしを支えている。	身体拘束や高齢者虐待の研修を行っています。玄関は死角となる位置にあり、外部からの侵入を防ぐために施錠していますが、リビングやダイニングキッチンからは出入り自由で、利用者や職員はここから出入りしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修では、高齢者虐待についてスタッフとともに具体的に身体的虐待・経済的虐待・心理的虐待等について事例を挙げ、スタッフ全員知識を共有し、お互いが振り返られるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者及びスタッフが成年後見制度及び日常生活自立支援事業についての研修を2日間行った。(NPO法人主催・弁護士主催)現在利用者1名が、医師及び関係機関との協力で成年後見に向けて調整を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	現在重症化するにあたっての機材・材料費の負担について、管理者と家族で話し合い、相互が納得する形で進めている。不安や疑問などもたずね、その都度説明している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず「何かありませんか？」とさりげなく会話の中でたずねている。毎月、利用者の状況を管理者が家族に文書や電話で報告している。担当スタッフからも手紙を書き、つかさだよりとともに家族に送っている。ふれあいサロンに利用者が参加する際、地域運営推進会議のメンバーも参加しており、利用者がなんでも話せる機会を作っている。	家族会があり、年1回報告会を開催しています。ホームでの生活を記録したデジタルアルバムを見た家族が、編み物をする利用者の姿に「昔の母でした」と感激されたことがあります。毎月担当者から、手書きの状況報告の便りと、利用者の生活が伝わる写真入りの「つかさだより」を送付しています。管理者も手書きの便りを送っています。1ヵ月に1回は管理者から電話をしています。ある利用者の家族から犬が好きだったと聞き、ドッグセラピーを導入するきっかけになりました。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例会・勉強会において、運営や決定事項に関してスタッフの意見を聞く機会を設けている。非常勤スタッフが多い中、個々にコミュニケーションを取り、全職員の声に耳を傾ける努力をしている。	管理者は、会議のほか、日常的に職員の意見を聞くよう心がけています。利用者の思いを実現しようと職員が提案し、球場での野球観戦や銭湯へ行くことが実現しています。管理者は、職員の支えに感謝し、職員は管理者の職務に敬意を払い、お互い信頼関係が築かれています。	管理者の交替から半年たち、これからさらなるサービスの向上が期待されます。書類の整備や地域密着型サービス事業所としての役割を発揮するなど、管理者・職員一丸となって取り組むことが期待されます。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者（理事長）はスタッフのやる気・意識の向上を目指すように度々協力して情報の共有をしている。管理者はスタッフ一人一人の意見を吸いあげた上で、各自が向上心を持って働くためには何が必要かを代表者に投げかけている。資格取得への支援等も相談している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、スタッフの個々の力量・希望・習熟度を踏まえ、それに応じた研修を選択している。施設内では具体的に事例を挙げて研修を行っている。ヘルパー2級から介護福祉士への資格取得への研修の情報を伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会に加入。その他、市のケアマネジャーの会を通じ、他施設との交流会に参加して情報交換を行っている。交流を通して他施設のスタッフがボランティアにきていただいている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入前、本人・家族・協力機関と面談し実際にホームを見学していただき、不安や要望に耳を傾ける。本人や家族には些細な事が不安なため、それを気づくよう言葉かけなど配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の想いを受け止めることは非常に重要であるが、本人と家族が同じ気持ちであるとは限らないため、家族の体験や想いも受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	1名の利用者の家族は、在宅での介護疲れで精神的に追い込まれていた為初期から面会がなかった。家族の心のケアに焦点を置きながら利用者との距離を近づけていく努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に出来ない事より出来る事にスポットをあて、スタッフも家族であるという考えで一緒にできる事を個別に見極めていく。利用者それぞれが得意な分野(食事の用意・洗濯物をたたむ等)を一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が少なくなったり、疎遠にならないよう、手紙や電話等で状況を説明。それぞれの抱えている現状を考えながら、本人にとって生きる支えが家族であることを共に私達も支えていけるよう努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会は歓迎し自由に来られている。外出も定期的にされており、電話の使用も自由である。また、昔から1名なじみの美容室に通われている利用者もいる。	馴染みの友人が訪問されたり、行きつけの美容室に通ったり、今までの生活の継続を大切にしています。また、入居してから利用者間で馴染みの関係も築かれ、ホスピスに入院した利用者の誕生日のために、皆で千羽鶴を折っていました。「姉ちゃんと思っている」「頼りにしている」等、利用者間の支え合いも生活の張りになっています。退去になった利用者の家族が、孫を連れて訪問してくれることもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーションの時間などにスタッフのさりげない対応で利用者同士が話し、交流が出来るよう心がけている。1名の車いすの利用者を他の利用者が見守ったり気にかけていたりする場面がみられる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	有料老人ホームに移った利用者には、スタッフが定期的に訪問し関係を継続している。独り暮らしに至った利用者には、定期的に手紙を送ったり電話をしている。時折、施設に訪問しては、庭の手伝いをして下さる。その他相談にも随時応じている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味・嗜好が違う利用者に対しては個別支援を行っている。1名の利用者には個別の散歩、個室でのクラシック鑑賞を行っている。本人の意向が困難な場合は家族等から情報を得て本人の立場に立った話し合いを支援スタッフ全員で行っている。	入居時の面接や介護計画のアセスメントで、利用者・家族の思いや希望を把握しています。利用者の思いを実現しようと、職員は積極的に提案をしています。球場での野球観戦や銭湯へ行くこと、ステーキを食べに外食すること等、実現することができました。	個別支援に力を入れて取り組んでいますが、日常の関わりの中での利用者への気づきや発見を職員が共有できる仕組みを検討されてはいかがでしょうか。気づきや発見を介護計画に反映し、さらなる個別支援の質の向上が期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時等に家族には、利用者の生活史を会話の中でさりげなく聞きとるようにしている。また、利用者と一緒にゆっくり過ごせる時間には、よく昔話をし、情報を得る努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人一日の流れに沿った暮らし方をスタッフと常に話し合っている。1名は朝に庭の掃除を、1名は料理の手伝い等、できる事に光をあてるよう努力している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアマネージャーを中心に担当者会議を開催し意見を交換している。必要時、関係する外部の方にも参加していただき、計画を見直している。内容を家族にも説明し意見をいただき、利用者自身にも話しをしている。	計画作成担当者が介護計画の案を作成し、担当者会議で意見交換を行った上で、利用者本位の介護計画を立て実施しています。モニタリングは2ヵ月毎に実施しています。介護計画は家族だけでなく利用者にも説明し、同意を得ています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1名の重症の利用者には随時記録。他は、健康面・生活面ごとに分け、本人の言葉などありのままを記載するように努めている。今後も改善に向け、検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージを希望する利用者1名に、1週間に2回サービスを取り入れている。その他、ハンドマッサージ・懷メロ・大正琴など利用者の希望に沿ったボランティアを取り入れている。今年度は利用者の希望が多かったドッグセラピーを取り入れた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や自治会長より、毎月地域行事の誘いを受け参加している。地域の消防訓練や神社の清掃にも利用者と共に参加している。また、地域の喫茶店に行き交流を深めたりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に家族の希望を聞き、それぞれのかかりつけの病院に受診している。受診にはスタッフが同行するが、家族が同行する場合もある。当法人の嘱託医(内科医)と精神科医にも月に一度往診してもらっている。定期的に歯科受診も行っている。	ほとんどの利用者は、入居前からかかりつけの医療機関に受診しています。受診は本人や家族の希望に応じて対応しています。嘱託医と精神科医に月に1度往診してもらっています。夜間急変時には、嘱託医に連絡し相談できます。定期的に歯科(通院)受診しています。受診状況は記録に残し、家族にも連絡し報告しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師も兼ねており、昨晚の状態を知った上で必ず朝一番に一人一人の入居者の部屋を訪問し声をかけながら観察し、異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には1日に1回、必ず管理者がスタッフが訪問し状態を把握している。主治医や看護師との話し合いにも同席し、退院に向けての計画を密にしている。継続的に行う処置についても病院側から説明を受けスタッフにも伝達している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	1名重症化した利用者があり、当施設の看取りに対しての支援状況・スタッフの状況やできる事・できない等の意見交換を、家族・管理者・スタッフと行った。また、主治医・ケースワーカーとも話し合い、現在ホスピスの待機待ちではあるが、看取りについての計画書を作成中である。	重度化対応については都度、家族と話し合いながら対応しています。看取りについて指針を作成しています。看取りについての事前準備書を作り、嘱託医が入院について家族に話をし、緊急時には、延命措置をするかどうか等の意向も聞き、記録に残せるようにしています。ホスピス病棟へ行かれた利用者もありますが、看取りについての学習を積みながら、今後検討していくことにしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは急変時や事故対応について施設内で研修を行っている。窒息等の急変に備えての対応を実際に訓練するとともに、物品（掃除機のノズル）等の整備も整えている。緊急連絡網を貼付している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災担当者を中心に月に一回、施設内で防災・災害対策についての研修や訓練を行っている。また、年に一回消防署立会いの下、早朝・昼間の設定で避難訓練も行っている。法人全体の訓練や地域の避難訓練にも利用者と共に参加している。利用者の発案により、防災頭巾を作成した。災害時に備えての備品等も準備している。	毎月防災についての研修や避難訓練をしています。地域住民の避難訓練にも、利用者も一緒に参加しています。年に1回は消防署の指導のもとで訓練を行っています。夜間非常口から出るときに備えて、センサーライトを設置しています。スプリンクラーの取付けを計画しています。消火器・避難路の確保もしています。非常用の水や食料品、災害グッズ、防災頭巾等、災害に備えています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関しての研修を実施。具体的に今、自分たちが行っている支援(言葉かけが誘導的になっていないかなど)を振り返る機会を持っている。個人情報を用いてのケア会議の際は、事前に利用者及び家族に同意を得ている。全スタッフにもプライバシーに関する誓約書をとっている。	プライバシーについての研修を行い、一人ひとりの人格を尊重し、本人の気持ちを大切にし、さりげないケアや自己決定しやすい言葉かけをしています。職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、優しく接しています。おむつはおむつ箱に入れるように配慮しています。個人情報の取り扱いについても全職員が周知しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	利用者と個別に話す機会がある場面で本人の想いを知り、日々支援をするよう努力している。レクリエーション時も1名が音楽の趣味が違うため、個別に部屋を設けクラシック音楽を流している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れは決まっているが、強制はしていない。今年はそれぞれの趣味嗜好に合わせ希望を聞いたうえで、の援助に力を入れ、自身のペースに合わせる努力をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性1名が、昔からなじみのある美容室に通っている。月に一回スタッフがスチーマーを用いて肌の手入れを行い、化粧をする日をもうけている。今まで興味のなかった利用者も自らお化粧をするようになった。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に調味料など買い物に出かけている。一緒に食事作りも行い、準備や後片付けも行っている。おやつ作りの際も利用者の希望を聞いて一緒に試行錯誤しながら作っている。意欲がない人には、声かけを行い下膳等してもらっている。	食材業者から食材と作り方が書かれたメニュー表が届き、ホームで調理しています。利用者と職員と一緒に台所で食事づくりから片づけまで行い、利用者は生き生きと楽しそうにしています。介助が必要な利用者には職員が付き、サポートしています。利用者の希望を聞き、おやつ作りや鍋物等の行事食をすることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	茶碗・湯のみ・箸は本人の好みの物を使用している。管理栄養士によるメニューで栄養のバランスのとれた食事を提供し、水分も本人の好みに応じた物（スイカやアイスクリーム）を提供し水分量も観察している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きを嫌がる利用者には、食後にタイミングをみてさりげなく洗面所に誘導する。夕食後は義歯を預かり、洗浄剤につけ清潔を保持。義歯を用いていない ソフト食の利用者には口腔ケアスポンジを用いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を参考にしながら、各個人の排泄パターンを頭にいれ、トイレでの排泄を促している。1名が夜間ゴミ箱への尿排泄があったが、理由を考え、トイレの場所が分かるように工夫し、今現在はトイレで自力排泄しパンツを使用している。	入居時はポータブルトイレを使用していた利用者が、今は、完全にトイレに行けるようになった事例もあります。下剤を飲まずに牛乳で排便がスムーズになることに職員が気づき、支援している利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を日常的に使用している利用者は医師の指示以外いない。牛乳・バナナなど各個人に応じた飲食物の提供を行い、3日以上便秘の方は今のところいない。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に合わせるよう努力している。夏場、女性1名が夜間に入浴したいとの希望があり入浴してもらっていた。他の2名の女性は銭湯に行きたいとの申し出があり、2か月に1回行っている。季節に応じた入浴剤も使用している。	利用者の希望に応じて入浴しています。夜間の入浴希望者にも対応しています。シャワー浴しか受け入れなかった利用者が職員と一緒に銭湯へ行き、とても良い笑顔をされたことがあります。季節に応じて入浴剤を使用しています。今後、足湯の予定もしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	一人一人に応じた休息をとって いる。ほとんどの人が昼食後に 昼寝をさせているが、寝られな い方はリビングでお茶を飲んだり、 テレビを観ている。寝具は肌触 りがよく使いなれたものを持参 してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めている	薬の用法や副作用については 看護師よりスタッフに説明して いる。変更時には必ず管理日誌 にも記載し全スタッフが目を通 すことになっている。薬の投与 時には、必ず飲み込むところを までを確認し、本人管理の場合 は残薬の確認を看護師が行って いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	一人一人の趣味嗜好が異なる ため、個別支援ができるよう努 力している。クラシック鑑賞・ 裁縫・庭の手入れ・調理の手伝 いなど楽しんで行える役割分担 をさりげない形で支援している。 朝食に納豆を食べたい利用者 に関しては全員に希望を聞いた うえで、希望者に出すように している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩を行い、コースも個々の希望に応じている。車椅子の利用者も状態に応じて戸外にでかけるよう努めている。一人一人の希望に応じた外出をとりにいれるようにしており、家族と同行できよう支援している。近くの喫茶店や買物・散髪・外食など外出の機会を増やそう努めている。	毎日、利用者のコースや時間に合わせて散歩をしています。調味料の買い出しには、職員と希望する利用者が一緒にいきます。地域のふれあいサロンに毎月行き、顔なじみの方もできました。寿司や焼き肉を食べに行く、球場や海遊館に行く等、本人の希望に応じて外出支援をしています。希望を表出しにくい利用者には、家族から聞いた、日頃のケアからの気づき等でできるだけ利用者の希望に応じ、積極的に外出できるよう支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名は自己管理しており、1名は本人と相談しお小遣いとして渡している。また、地域の祭りに参加する場合はお小遣いを所持してもらい、使う喜びを得てもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話は自由に使うことが出来る。ペースメーカーが入っているため、個人で電話を設置した利用者もいる。当方に利用者の家族や友達からも電話がかかってきており、子機を使って自由に話してもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのソファは、車いすの人も含め、利用者同士が話しやすい位置に変更している。ダイニングには利用者が書いた習字の作品等を展示し、居心地の良い空間作りに努めている。1 名重症の方の部屋は和室であるが、本人が懐かしく感じられる写真等を置いて飾っている。	豪邸を改装しているため、大邸宅でゆっくりのんびりと暮らせる雰囲気があり、また広い前庭があることで、日差しが居室やリビング、ダイニングキッチンに差し込み、明るく暖かです。リビングには、テレビ・新聞・デジタルアルバム等置いてあり、ソファの位置にも配慮し、利用者はゆっくりくつろぐことができます。食堂には、飼育ケースで金魚とコイを飼っていて、大きくなるのを楽しみにしています。壁には、行事の写真や利用者の作品が飾られています。庭には、季節の花や野菜が植えられ、庭に出るのが楽しみの一つとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階に2～3人で過ごせるスペースを設けている。ソファとテレビを設置し、利用者がテレビを見たり、話をしたり、編み物をしたりと、おもしろい時間を過ごせるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には長年慣れ親しんだ家具・寝具・思い出の品を持ち込んでもらっている。持ち込みが少ない方は、本人の生活史を考え、相談しながら本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	居室のベッド・冷暖房・カーテンはホームの備えつけで、入居時には、大切にしていた仏壇やタンス、ドレッサーや家族の写真等を自由に持ち込んでいます。編み物が趣味の利用者は、編み物用具も持ち込み、居心地良く過ごせる工夫ができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一般の豪邸を改造したグループホーム・庭は大きく、利用者が四季折々の花を植え育てることもできる。屋内はバリアフリーで2階のバルコニーに布団を干したり、洗濯物を取り入れたり、自然に日々過ごされている。		